

ヨーク J F K国際空港に着陸しました。入国手続き後早速市内観光に出発し、ニューヨークでの3日間の研修が始まりました。最初の見学地となった、ニューヨーク随一のランドマークとして、また、長い間世界一の高さを誇っていたエンパイア・ステート・ビルを目の当たりにしたとき、生徒達は本物のニューヨークに出会ったと実感したに違いありません。

翌日は、ニューヨークのみならずアメリカのシンボルである自由の女神を始め国連本部、そして9・11（2001年9月11日）同時多発テロにより崩壊した世界貿易センタービル跡地（グラウンド・ゼロ）を見学しました。そこでは現在フリーダム・タワー建設のための基礎工事が進められていましたが、9年前多くの人命が犠牲となったその現場、テレビ報道でしか見たことのない、まさにその現場に自分自身が立っていることが何か不思議な気分になりました。犠牲になられた多くの方々のご冥福を祈って生徒達とともに全員で黙祷を捧げました。

夕食後には、New Amsterdam Theaterにおいて、本場ブロードウェイでのミュージカル「メリーポピンズ」を鑑賞しましたが、生徒達は舞台演出等々夢のような2時間45分を過ごしました。

ニューヨーク最後となる3日目は、世界4大ミュージアムのひとつであるメトロポリタン美術館の見学です。美術館では、ゴッホ、ルノワール、モネなどによる19世紀ヨーロッパの絵画に接することができましたが、あまりにも有名な作品や貴重な展示品を目の当たりにし、そのスケールの大きさに衝撃を受けたのは私だけでしょうか。

商業、芸術、文化等々あらゆる分野で世界の最先端を疾走するニューヨーク。それは、あらゆる人種と異文化が融合するエキサイティングな街です。短い時間ではありましたが、生徒達にとって本物のニューヨークを体感できた3日間であったと思います。

その日の午後、ホストファミリーとの対面のため特急列車（アムトラック）にて、ワシントンDCへ向けニューヨークを後にしました。

4. いよいよ ホストファミリーとの対面

3時間半ほどの列車の旅を終えワシントンDCの駅に着くと、そこではホームステイのコーディネーターである、Dawn Simpsonさんが穏やかな表情でわれわれを出迎えてくださいました。早速「にわか英語」でいさつを交わした後、バスに乗り込みホストファミリーの待つワシントン郊外へ向かいました。バスの中の生徒達の顔からは、ホームステイへの期待と不安の交錯した緊張感がズシンと伝わってきました。

ホストファミリーとの対面会場である、ホテル SLEEP INN POTOMAC MILLSの駐車場に着き緊張した面持ちでバスから降りる生徒らに対し、ホストファミリーは生徒の名前などを記したカラフルな手作りボードを手に、にこやかな表情で出迎えてくれました。それぞれ挨拶を交わした後、生徒らはホストファミリーとともにそれぞれの家庭

へと向かって行きました。これから始まる6日間のホームステイを通じて、生徒達が更に大きく成長してほしいと願いながら手を振り見送りました。



5. 首都ワシントンDC

土・日をホストファミリーと過ごした生徒達が元気に集まってきた。ワシントン滞在4日目を迎えた今日からワシントンDCでの研修です。この研修には全員ではありませんがホストファミリーの方も参加してくれました。研修ではホワイトハウス、ワシントン記念塔、リンカーン記念館、連邦議事堂などを見学しましたが、これら重厚な建造物を目の当たりにした生徒達は、アメリカにいることを改めて実感したことだと思います。また、スミソニアン航空宇宙博物館では、今から41年前人類史上初めて月面着陸に成功したアポロ11号の司令船が展示していましたが、当時のことを新聞やテレビの報道で見た私などは、しばらくその場で釘付けになってしまいました。

翌日の午前中にはホロコースト記念博物館を訪ね、Marcel Hodak氏（1937年生まれ・73歳）より、同氏が両親から聞いた話しとして体験者の講話を聴きました。講話の後、生徒は勿論のこと我々引率者も戦争の経験はありませんが、戦争をどう思われるか尋ねてみました。同氏は「私も軍人であったが・・・」との前置きのあと、「教育が重要。戦争を知らないことはハッピーだ」とこたえられたその言葉を、生徒達も充分理解してくれたと思いました。

体験者の講話を聴いた後の博物館の見学はまさに衝撃的でした。ユダヤ人の大量虐殺・・・直視に耐えない残酷な展示物や映像の数々は私を含め生徒達にとって、戦争の愚かさと平和の尊さを知るのには充分すぎるほど衝撃的なものでした。そうした中、RESCUERS（ユダヤ人を救った人々）の中に杉原千畝氏の名前と写真を発見した生徒達は、故郷の偉人の業績を改めて認識してくれたものと思っています。

6. 海外研修もあとわずか…Fairwell Party そして別れ

ワシントン滞在6日目を迎えた私達は、地元のGar-Field高校を訪問し、William G Bixby校長から学校の説明を受けた後、折り紙のレクチャーなど